

2022 年度事業計画書

(2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日)

■2022 年度事業計画

本事業年度における世界経済、国内経済は 2020 年度から引き続き新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大(パンデミック)により、企業活動や消費活動に大きな影響を及ぼし、海外・国内景気は依然不透明な状況が続くものと予想される。国内では、ワクチン接種の効果もあり、変異株のデルタ株からより感染力の強いオミクロン株へ感染の主体が代わったものの全国の緊急事態宣言、まん延防止措置も解除されたものの、より感染力の強い、毒性も強い変異株ウイルスの蔓延も危惧されており、今期も予断を許さない状況である。

一方、ロシアのウクライナへの軍事侵攻により世界経済の不透明感が新たな脅威となりつつある。円安ドル高の為替相場が進展した場合、インフレ懸念が国内経済に及ぼす影響も心配される。また、東日本大震災から 11 年を経過した今年 3 月に福島県沖を震源とする震度 6 強の地震が発生するなど自然災害への対策も当連盟ならびに翻訳・通訳業界の持続可能な発展と健全化を進める上でBCP(事業継続計画)の策定と運用が重要となってきた。

さらに、翻訳・通訳業界もリモートワークによる働き方改革が推進されているが、顧客からの継続した品質・スピード・コストに対する要求基準の高まり、さらには翻訳精度の向上がみられる機械翻訳の利活用の進展等により、引き続き翻訳・通訳業界を取り巻く環境は市場・作業環境面で大きく変化しつつある。

このような環境の中で、昨年度創立 40 周年を迎えた日本翻訳連盟は翻訳・通訳業界の中核的役割を果たす組織であることを自覚し、大きく変化しつつある市場・作業環境の中で持続可能な発展と健全化を推し進めていくために、これまでの伝統を継承しつつも新しいものを取り入れてゆく「不易流行」の考え方を基本に、関連諸団体との提携・協力関係をさらに深めながら以下の 5 項目を引き続き 2022 年度の重点施策とする。

- (1) オンライン開催を基本とするセミナー運営などの会員サービスのさらなる拡充と入会促進
- (2) 委員会体制の強化とリモートワークの推進、Webサイトの利活用による事務局業務の効率化
- (3) ほんやく検定試験に関する組織強化と実施・運用方法に関する検討
- (4) 機械翻訳、翻訳・通訳支援ツール、用語バンク等に関する調査・研究の推進
- (5) 国内外関連団体との更なる提携・協力関係の一層の強化

■1. 翻訳事業に関する調査及び研究(定款第4条第1号関係)

①業界調査委員会

【内容】

従来の業界調査項目に加え、機械翻訳システムの利活用状況に焦点をあてた業界調査を実施し、2022年度翻訳白書を発行する。

2021年度翻訳通訳白書のマーケティングプランとして、以下のような販売・広報活動を実施する。

- (1) AmazonにてPOD(プリント・オン・デマンド)サービスによる販売
- (2) JTF 会員・非会員・過去の購入者へメールリストによる告知活動
- (3) JTF ホームページおよび JTF 公式 SNS(Twitter, Facebook)を利用した広報活動
- (4) 関連団体の協力による広報活動

【担当】

業界調査委員会

委員長: 安達久博(JTF 会長)

副委員長: 二宮俊一郎(JTF 理事)

委員: 原真理恵(株式会社RWSグループ)、筆谷信昭(日本映像翻訳アカデミー株式会社)、室田陽子(JTF 理事)

②翻訳品質委員会

【内容】

A) 公開資料の維持管理および活用

- ・ 「JTF 翻訳品質評価ガイドライン」(以下「ガイドライン」)を維持管理し、必要に応じて改訂する。
- ・ 「ガイドライン」の試用と評価を翻訳会社などに要請する。
- ・ 「JTF 日本語標準スタイルガイド」(以下「スタイルガイド」)、「JTF Style Guide for Translators Working into Japanese」(以下「英語版スタイルガイド」)、および関連ツールを維持管理し、必要に応じて改訂する。

B) 公開資料の告知と広報

- ・ オンラインセミナーの形で、スタイルガイドおよびガイドラインの告知と浸透を図る。

C) ほんやく検定との連携

- ・ ほんやく検定におけるガイドラインおよびスタイルガイドの活用について、ほんやく検定委員会と協議する。

【担当】

翻訳品質委員会

委員長: 高橋聡(JTF 副会長)

副委員長：東尚子(個人翻訳者)

委員：駒宮俊友(個人翻訳者)、田嶋奈々(株式会社翻訳センター)、西野竜太郎(個人翻訳者)、舟津由美子(個人翻訳者)

③用語バンク委員会

【内容】

用語バンクを実現するためには産学官の様々な立場の方々に構想の趣旨をご理解いただき支援をいただく必要がある。Web で公開した資料を基に、業界関係者、関係機関への働きかけを促す活動を引き続き強化してゆく。

【担当】

用語バンク委員会

委員長：安達久博(JTF 会長)

副委員長：森口功造(JTF 専務理事)

委員：隅田英一郎(JTF 理事)、高橋聡(JTF 副会長)

■2. 翻訳事業に関する研修会及び講演会等の開催(定款第4条第2号関係)

①翻訳セミナー企画運営委員会

【内容】

昨年度に引き続き、すべて“オンライン”でのセミナー開催を予定している。昨年度は計4回のセミナーを実施したが、今年度も4回を想定している。そのうち、1回は通訳に関するセミナーを実施する予定。なお第1回目については、以下のとおり、日時、内容、講師を確定し、今後参加者を募集予定です。第2回目以降は、順次企画して、開催していく予定。

主な予定

第1回 2022年5月26日(木)14～16時

テーマ：「シンプルな英語をベースにした日英翻訳基礎講座」

登壇者：中山 裕木子氏(株式会社 ユー・イングリッシュ 代表取締役)

第2回 2022年7月開催予定

テーマ：IR 翻訳

登壇者：寺崎 徹哉氏(かえで翻訳株式会社 代表取締役)

第3回 2022年12月開催予定

テーマ：現役通訳者による講演会を予定

登壇者：白倉 淳一氏(日英会議通訳者)

第4回 2023年1月開催予定

テーマ：企画中

【担当】

翻訳セミナー委員会

委員長:村下義男(JTF 理事)

委員:高木美香(株式会社コングレ・グローバルコミュニケーションズ)、中野真紀(個人翻訳者)

②翻訳祭企画実行委員会

【内容】

・名称 第31回 JTF 翻訳祭 2022

・テーマ 当世翻訳通訳事情 ～普遍的な変化と不変的な価値～

・開催期間

会期:[リアル]2022年10月4日(火)～10月18日(火)(15日間)

[再放送]2022年10月19日(水)～11月30日(水)(リアル終了から43日間)

申込期間:2022年5月末までに確定予定

今回も昨年度に引き続きコロナ禍の終息が、まだまだ見えない中で、全ての内容を“オンライン”で開催する。

本大会は通訳業界の「今」を捉えた時、変わったこと／これから変わること／将来も変わらないことは何なのかを議論する場とし、関係者一同で、このイベント成功に向けて、積極的に取り組んでいく。

【担当】

大会組織委員会

委員長:安達久博(JTF 会長)、大会組織副委員長:森口功造(JTF 専務理事)、委員:石川弘美(JTF 理事)、村下義男(JTF 理事)、二宮俊一郎(JTF 理事)

実行委員会

実行本部

委員長:二宮俊一郎(JTF 理事)、副委員長:松元洋一(JTF 理事)、プログラム委員長:古河師武(株式会社インターブックス)、広報委員長:石川弘美(JTF 理事)、財務・渉外担当:平野幸治(株式会社メディア総合研究所)、実行委員長補佐:敦巻千里(株式会社翻訳センター)、

実行委員

広報委員:マハウオンウイリヤ スタシニー(株式会社アミット)、松本佳月(翻訳者)

プログラム委員:安藤惣吉(JTF 常務理事)、石川秀明(ヤマハ株式会社)、岩下雅寛(凸版印刷株式会社)、木村仁美(アイ・ディー・エー株式会社)、塩崎理恵(株式会社アビリティ・インタービジネス・ソリューションズ)、高橋聡(JTF 副会長)、谷順一郎(株式会社オレンジ社)、成田崇宏(株式会社ホンヤク社)、舟津由美子(個人翻訳者)、松浦悦子(個人翻訳者)、宮本伸也(JTF 監事)、由良恭平(アイ・ディー・エー株式会社)、李東偉(JTF 理事)

アドバイザー:中野真紀(翻訳者)

③関西委員会

【内容】

機械翻訳に関する最新情報に加え、多言語、品質管理など、新メンバーのアイデアなども盛り込んでいきたい。オンラインを生かし、関西から日本、世界の関係者にユニークな情報を配信していくつもりである。

東京のセミナー、総会、翻訳祭と重ならないように、5月～3月の間で企画開催し、翻訳者、ソースクライアントが興味を持つ、有益な内容を提供する。

【担当】

関西委員会

委員長:石岡映子(JT 常務理事)

委員:安藤惣吉(JTF 常務理事)、木村仁美(アイ・ディー・エー株式会社)、由良恭平(アイ・ディー・エー株式会社)

■3. 翻訳事業に関する人材育成及び資格能力審査の実施(定款第4条第3号関係)

①「JTF ほんやく検定」の実施

【内容】

本年度もほんやく検定を2回実施する。今年度の受験者数の目標は、1,000名(延べ人数)とする。

本年度も特許分野をNIPTA様と共同運営し、JTF会員はNIPTA様のすべての試験を20%引きで受験できるサービスを継続する。

また、ほんやく検定の最適なPR活動をさらに積極的に行う。SNS媒体を活用した広報展開を行い、

新規受験者数の増加を図る。JTF法人会員が運営する翻訳学校の現役受講生に対するJTF会員受験料適用など対策を取り、翻訳学習者もほんやく検定の受験を受けやすくし、受験数増加を図る。

若手翻訳者や独立を目指している合格者の為に、翻訳会社との交流を深める機会を提供する。

【日程】

第77回:2020年7月25日(土)、第78回:2021年1月23日(土)

科目:(基礎レベル)5級/4級(実用レベル)英日翻訳/日英翻訳

実用レベル分野:(1)政経・社会(2)科学技術(3)情報処理(4)医学・薬学(5)金融・証券(6)

特許(特許についてはNIPTA様と共同運営を継続する)

受験方法:インターネット受験

【担当】

ほんやく検定委員会

委員長:安藤惣吉(JTF 常務理事)

委員:高橋聡(JTF 副会長)、マイアットかおり(Word Connection sarl)

オブザーバー:室田陽子(JTF 理事)

②「JTF ほんやく検定」問題・解説集の刊行

【内容】

過去問題・解説集の刊行

DM、ホームページ、雑誌等による広報活動を積極的に行い、新規申込者数の増加を図る。本年度も従来どおり、各回の「問題・解説集」を編集・刊行する。

第76回:2021年6月下旬刊行 第77回:2021年12月下旬刊行

【担当】

ほんやく検定委員会

委員長:安藤惣吉(JTF 常務理事)

委員:高橋聡(JTF 副会長)、マイアットかおり(Word Connection sarl)

オブザーバー:室田陽子(JTF 理事)

■4. 翻訳事業に関する情報の収集及び提供(定款第4条第4号関係)

①組織委員会

組織強化の推進

【内容】

- ・コロナ禍が続く中、引き続き事務局員のリモートワークの継続とWebサイト、業務システムなどの利活用により事務局業務の効率化を図るとともに、会員向けのサービスを一層強化する。
- ・アジア太平洋機械翻訳協会(AAMT)等と連携し、機械翻訳等の調査、研究、利活用状況などの会員への情報提供を引き続き実施する。

【担当】

組織委員会

委員長:安達久博(JTF 会長)

委員:高橋聡(JTF 副会長)、森口功造(JTF 専務理事)、安藤惣吉(JTF 常務理事)、石岡映子(JTF 常務理事)

○翻訳・通訳事業の ISO 規格化に向けた取り組み

【内容】

翻訳部会では、ISO/CD 5060 の検討を継続し、DIS 化に向けて必要に応じて臨時の委員会開催

を検討する。ISO 18587 の定期見直しに関する情報が出てきたら速やかに委員会にて情報共有する予定。

通訳部会では、昨年度 ISO23155(会議通訳)が 2021 年 12 月に IS 発行をしたが、残る ISO24019(遠隔同時通訳プラットフォーム)は、中身の整合性をとるために、FDIS 段階の手前でストップしている。あと 2022 年 2 月末の最終会議で、IS までたどり着くための調整をする予定。一方で、5 年ごとの ISO の見直しの期限が順次きている。特に同時通訳関連の機材、ブース等の規格見直しや新規の ISO を検討する動きも出ている。引き続きフォローしてゆく。

【担当】

組織委員会部会 ISO 規格検討会

部長：森口功造(JTF 専務理事)

部会委員：田嶋奈々(株式会社翻訳センター)、村下義男(JTF 理事)、山田優(個人会員)

○通訳事業に関する講演会等の開催及び調査研究

【内容】

今年度も全 4 回のうち、1 回は通訳者によるセミナーを企画し、実施していきます。

今回は現役会議通訳者として、活躍されている男性通訳者に登壇いただき、これまでのユニークなキャリアや現在の仕事での基本的なスタンスや心構え、セミナー参加者にとって役立つ情報を提供していく企画にしています。多くの通訳者(初心者から中堅まで)にセミナーに参加していただける内容にしてまいります。

【担当】

組織委員会部会 通訳部会

部長：村下義男(JTF 理事)

②トラブル防止委員会

【内容】

前年度から取り組んでいる JTF ホームページの「翻訳基本契約のひな形」の改訂版の作成を行う予定。各翻訳会社、個人翻訳者・通訳者の意見をくみ取り、中立的な立場で作成していきたい。

【担当】

トラブル防止委員会

委員長：松元洋一(JTF 理事)

③広報委員会

JTF ホームページの企画・運営

引き続き不具合等を調整していき、セミナー等の有料オンライン配信販売の検討など、時代に即したサービスにするため委員会と相談しながら改善を行う。

JTF Web ジャーナルの編集発行

2022年4月からの新体制に合わせ、読者の希望に即した内容にブラッシュアップしていく。委員として個人翻訳者の参加に加え、出版関連の編集者およびライターを起用し、個人翻訳者／翻訳会社／クライアントそれぞれに興味を引き価値のある特集記事を掲載していく。インターフェイスについても刷新し、翻訳・通訳業界に関するますます有益なサイトになることを目指して情報を発信していく。

その他広報活動

「翻訳の日」の周知については引き続き発信していく。また、JTF 翻訳祭については引き続き広報活動を行う。

広報ツールの作成

役員改正に合わせて見直し、修正を行う。

【担当】

広報委員会

委員長:石川弘美(JTF 理事)

委員:松元洋一(JTF 理事、JTF WEB ジャーナル編集長)、高須千代(編集)、手島千左子(ライター)、松本佳月(翻訳者)

■5. 翻訳事業に関する内外関連機関との連絡及び協調(定款第4条第5号関係)

【内容】

各事業活動において、関連団体との協調関係を引き続き強化させる。特に、機械翻訳、ポストエディット関連における業界内の関心の高さから、AAMT(アジア太平洋機械翻訳協会)、NIPTA、JAT、言語処理学会、人工知能学会などとの連携をはじめ、各団体との情報共有、連携を図り、利活用状況などの会員への情報提供を推進する。また、海外の関連団体との情報交換と連携を引き続き推進する。

【担当】

組織委員会

委員長:安達久博(JTF 会長)

委員:高橋聡(JTF 副会長)、森口功造(JTF 専務理事)、安藤惣吉(JTF 常務理事)、石岡映子(JTF 常務理事)

■6. 情報セキュリティに関する取組(定款第4条第9号関係)

【内容】

コロナ禍の中、各事業において、セミナー等のオンライン開催、Web サイト、Web ジャーナル、SNS 等を活用した会員向けのサービスを提供しているが、より厳重なセキュリティの管理・確保が引き続き重要となる。また、東日本大震災(3. 11)から 11 年を過ぎた今年、3 月 17 日夜間に同地域の福島県沖を震源とする震度 6 強(宮城県、福島県)が発生した。事業に関連するすべての情報やコンピュータおよびネットワーク等の情報システムを重要資産と位置付け、自然災害、大火災、テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく BCP(事業継続計画)を策定し、運用できる体制作りに取り組む。

【担当】

組織委員会

委員長:安達久博(JTF 会長)

委員:各委員会委員長、JTF 事務局